

夏の甲子園準優勝―仙台育英学園 高等学校硬式野球部に賛辞の楯贈呈

8月6日から23日にかけて行われた、第105回全国高等学校野球選手権大会において準優勝を果たした仙台育英学園高等学校硬式野球部に、9月22日、「賛辞の楯」を贈呈しました。

郡市長は「皆さんがひたむきに白球を追う姿、そして相手選手を思いやるフェアプレーに、大きな感動と勇気をいただいた」と選手たちの活躍をたたえました。

須江航監督は「一戦一戦全てが大会を代表するような強豪校との対戦でしたが、市民・県民の皆さん



▲仙台育英学園高等学校硬式野球部の皆さん

まからいただいた声援を力に変えながら、走り抜けることができたと応援への感謝を述べ、主将の山田脩也選手は「うまくいくこともいかないこともありましたが、3年生を中心にチームで支え合い、ここまで来られた」とこの1年を振り返りました。

当日は、橋本市議会議長より「仙台市議会議長特別表彰」の授与も行われました。

市政トピックス

大雨被害のあった福島県いわき市に職員等を派遣しました

9月8日の大雨で甚大な被害を受けた福島県いわき市に、ごみ処理支援のための応援職員とごみ収集車両を派遣しました。

9月25日には出発式が行われ、第1班となる環境局職員7人とごみ収集車両3台、連絡用車両1台を派遣。郡市長は「被災された皆さんが、一日でも早く安心して落ち着い



市政トピックス

常磐・三陸産の水産物消費を支援

東日本大震災で被災した、福島県・宮城県・岩手県の水産物の販売を促進しようと、9月29日、仙台市中央卸売市場で「常磐・三陸産水産物応援キャンペーン」が行われました。会場には、黒潮と親潮が出合う豊かな漁場で取れた「常磐もの」と言われる福島県産や、宮城県・岩手県で取れた新鮮な三陸産の水産物が並び、東北6県から集まった市場関係者、漁業関係者などが、水産物の紹介や試食を行いました。

実際に市場を訪れ、関係者から説明を聞いた郡市長は、「震災で苦労されてきた漁業関係者の皆さまのご尽力により、東北の水産業も復興してきました。市場に出来る安全でおいしい海の幸を、多くの方に召し上がっていただきたい



▲試食コーナーの様子。ヒラメ・ホタテの刺身やメヒカリの唐揚げなどが用意されました

市政トピックス

地域の防犯活動に貢献された方を表彰

市では、10月18日に行われた全国地域安全運動第35回仙台市大会で、8団体・88人の方々に表彰しました。このうち、防犯功労団体、防犯功労者、退任感謝状を贈呈した方は、次のとおりです（順不同・敬称略）。

〔防犯功労団体〕 国分町三丁目北振会、円達企業株式会社、八木山防犯協会、生田学区防犯協会、大沢地区防犯女性部、苦竹防犯協会、東仙台防犯協会、七北田小学校安全安心連絡会

〔防犯功労者〕 横山一作、竹田英子、岩本富貴、二瓶興喜、佐藤泰之、長谷川精、佐藤みよ子、鴛田薫、高橋喜久雄、山口辰己、佐藤恵美子、庄司紘子、高橋秀幸、樋渡順一、鴛田武

〔防犯指導員・防犯女性部員退任〕 数野紀雄、中村忠、渡邊剛伯、岡本康之、笹川久雄、加藤幸夫、本郷泰弘、佐藤光男、早坂輝夫、亀井健二、三浦龍一、鎌田稔、櫻井健伍、菅田勝男、伊藤喜久子、鈴木伸子、高橋正子、常盤節

市政トピックス

子ども・子育てを応援！「みんな子育てフェスタ」開催

た暮らしができるよう、活躍してほしい」と送り出しました。応援職員は、浸水ごみ・がれき等の災害ごみの収集・運搬業務に従事。10月1日からは、第1班の職員と交代で7人の職員が現地に向かい、7日まで災害支援に当たりました。

親子で一緒に、楽しく子育てするヒントを学べるイベント「みんな子育てフェスタ」が、9月23日に開催されました。メイン会場のゼビオアリーナ仙台では、家事・育児を効率的に進める方法や、子どもとの関わり方などを紹介するワークショップ、ステージイベントが行われ、子育て中の方や、これから子育てを始める方が真剣に話を聞いていました。会場内には、小さな子どもも楽しく遊べるよう、ミニトランポリンやサッカーチャレンジなどのアトラクションコーナーも設置。来場者からは「育児に役立つ情報が得られる良い機会になった」「子どもの興味を引くようなブースが多く、楽しめた」といった声が聞かれました。

また、屋外会場には、25年ぶりにデザインを刷新した移動図書館

▼メイン会場で行われたステージイベントには、多くの来場者が集まりました



▲水色を基調とした新デザインの移動図書館車「わかくさ号」。車両と一緒に写真を撮る方も見られました

3.11 震災文庫を

東日本大震災を語り継ぐため市民図書館に設けた「3・11震災文庫」。所蔵する約1万冊からよりすぐりの本を「紹介します」

「木を植えた男」

ジャック・ジオノ / 著
ジャン・フレデリック・バック / 絵
寺岡あす / 訳
あすなろ書房 刊

加藤 芳治 / 著
根本 暁生 / 監修
三浦 忠士 / 監修
あすなろ書房 刊

「震災・コロナ 子どもの遊びと遊び空間―仙台・冒険広場の記録」

画力にグッと引き込まれる絵本です。フランスの荒地に毎日ドングリを植えていく男「ブイエ」が描かれます。30年以上、2度の世界大戦の期間もずっとさまざまな木を植え続け、やがて自然環境や村の暮らし、人の心をも蘇らせた一人の信念のお話です。

私も震災後、津波で流された海岸線の再生に取り組んでいます。ブイエのように一人ではなく、市民みんなで育てる「ふるさとの杜再生プロジェクト」です。木を育てることを通じて震災を忘れないように、豊かな自然との触れ合いが皆の心を耕すように。「継続は力なり」とこの本が後押ししてくれそうです。

紹介した本は、市民図書館でご覧いただけます 問市民図書館 ☎261・1585